

平成21年度対モザンビーク食糧援助引渡式
瀬川大使 スピーチ
(仮訳)

おはようございます。

本日、インローガ商工大臣のご臨席を得た「平成21年度対モザンビーク食糧援助引渡式」において日本を代表して挨拶できることを大変嬉しく思います。

今般、日本が供与した約12百万米ドルに相当する約1.7万トンの援助米がモザンビークに到着しました。我が国はモザンビークに対して、地方開発・経済振興、人的資源開発、ガバナンス分野、気候変動で種々のプロジェクトを実施してきていますが、これに加えて1977年より食糧援助を行っており、これまで累計で約155百万米ドルが供与されています。

食糧は人間の命の源であり、そのため我が国はこれまで食糧援助を行ってきています。きちんとした食事をとり、健康を保たなければ、学校で勉強することも、畑で農業を行うことも、マラリア、コレラ、HIV/エイズなどの病気を闘うこともできません。すなわち、食糧の安全保障は、絶対的貧困を削減するにあたり必要不可欠なものであり、また、我が国が推進している人間の安全保障の根幹でもあります。

日本政府は2008年横浜で開催されたTICAD IVにおいて、アフリカに対する援助を今後5年間で2倍にすることを公表しました。この点、日本も世界金融危機の影響を受けているものの、この公約を確実に実現します。

最後に日本は今後とも中央政府及び地方政府と協力しつつ、各分野でのモザンビークに対する国造りの支援を継続していきます。これがモザンビーク国民の生活向上並びにモザンビークの経済発展と更なる繁栄に大きく貢献することを希望しています。

本日はご参列いただき、ありがとうございました。